

## ソーシャルボタンの評価から見た大学生のコメントの分析

### Analysis of Student Comments using Response to the Social Button

石川 貴彦\*1

Takahiko ISHIKAWA\*1

\*1 名寄市立大学保健福祉学部

\*1 Faculty of Health and Welfare Science, Nayoro City University

Email: ishikawata@nayoro.ac.jp

**あらまし:** 筆者は模擬授業の相互評価を教職課程にて実践しており、受講者間の評価の活性化を図るため、各コメントに付随するソーシャルボタンを独自に実装・設置した。本研究では、評価コメントに対する大学生の支持・共感がどのような点から起因しているのかを明らかにするため、ソーシャルボタンで記録した情報と、相互評価で記述されたコメントを関連・分析し、支持傾向の把握を試みた。

**キーワード:** ソーシャルボタン、相互評価、コメント、模擬授業、LMS

#### 1. はじめに

様々な SNS において、いいね！ボタン (facebook) や、+1 ボタン (Google+) といったソーシャルボタン<sup>(1)</sup> が普及し、投稿記事やコメント等に対する評価や共有がより活性化されるようになった。その一方、筆者は教職課程を履修する大学生に対して、模擬授業の相互評価を LMS 上で実践し、評価コメントのフィードバックや共有を通じて、教師の実践力向上を図る取組を進めている。

上記をあわせて、相互評価で記述されたコメントに、ソーシャルボタンの評価を付与すれば、受講者間の評価や共有が活性化され、例えば授業改善の意識がより強まると筆者は期待した。つまり、ソーシャルボタンの示す情報が、有用なコメントを強調したり、あるいは、参考になるコメントの書き方を教示したりするための効果的な手段になるだろうということの意味する。

では、コメントに対する支持や共感、どのような点に起因して決定に至っているのだろうか。本研究は、大学生のコメント支持を決定する要因を明らかにするために、ソーシャルボタンで記録した情報と、評価コメントを関連させて分析を試みた。

#### 2. 模擬授業の相互評価

##### 2.1 授業の概要

模擬授業の相互評価は、筆者担当の教職科目「教育の方法と技術」(平成 24 年度後期) の中で行い、教職課程を履修する大学 2 年生 33 名が実践した。1 人の受講者が教師役となり、自身が作成したスライド教材を用いて 5 分間の授業を行う。他の受講者は生徒役としてその授業を聞き、直後に LMS を用い

・話すスピードがちょうどよく聞きやすかった。\*1  
 ・声が大きくて聞き取りやすかったです。  
 ・説明がとても分かりやすかったです。声も大きくて聞き取りやすかったです。  
 ・もう少しゆっくり話したらいいと思います。スライドが丁寧だと思いました。  
 ・話すスピードがちょうどよく聞きやすかったです。  
 ・落ち着きがあって説明もゆっくりだったので聞きやすかったです  
 ・文章(ばかりで)内容があまり頭の中に入りづらいような感じでした...\*9  
 ・声に抑揚があり、重要なポイントがわかりやすかったです。\*7

\*1  
 \*1  
 \*1  
 \*1  
 \*1  
 \*1  
 \*1  
 \*1

図 1 ソーシャルボタンの提示画面

て授業評価する。それを 4 週かけて全員が互いに実施するという内容である。

##### 2.2 ソーシャルボタンの設置

筆者らは LMS を独自に開発しており、そのサブシステムの 1 つに相互評価支援システム<sup>(2)</sup> がある。支援システムには、授業スキルに関する項目毎の段階評価と、100 字程度までのコメント(必須)を入力するフォームがあり、各受講者が入力・送信すると、結果が自動集計されて授業者に提示される。同時に結果は受講者全体にも公開され、その公開画面にソーシャルボタンの機能を新たに実装した。画面上でボタンを押すと人数がカウントされ、即時に数値に反映する(図 1)。

ただし、ボタンは 1 コメントにつき各人 1 回だけ押すことができ、事後の取り消しはできない。また、全てのコメントは匿名で表示されるので、誰が記入したものなのかは受講者同士で知らない関係にある。さらに、各週の授業実施後にコメントを振り返る時間を設け、ボタンを押す判断を受講者が十分できるような配慮をした。

#### 3. ソーシャルボタン押下と評価コメントの関連

##### 3.1 キーワードの違い

最初に、ソーシャルボタンでの支持があったコメントとそうでないコメントを比較して、各々の着目の違いを洗い出し、支持を得やすい、および得にくいキーワードについて調査した。なお、他者からコメントにソーシャルボタンの押下が 1 つでもあった場合を、支持ありと判断した。分析対象のコメントは 960 件で、そのうち支持ありのコメントは 332 件(34.6%)、支持なしは 628 件(65.4%)であった。そして、各群のコメントについて形態素解析を行い、名詞の頻出語(上位 10 語)をコメントのキーワードとして列挙した(表 1)。その結果、両方とも上位は同じ頻出語が示され、キーワードの違いが支持を左右する要因にはなっていないことがわかった。

表1 各群の頻出語 (カッコ内は出現数)

支持あり	支持なし
スライド (93)	授業 (139)
説明 (86)	説明 (133)
授業 (75)	スライド (130)
声 (59)	声 (84)
生徒 (47)	生徒 (80)
内容 (45)	内容 (73)
学年 (34)	学年 (50)
対象 (25)	対象 (43)
言葉 (23)	視線 (34)
時間 (22)	理解 (28)

※下線部は共通しなかった頻出語を示す

### 3.2 コメントのタイプの違い

次に、コメントの内容が称賛や感想など肯定的な意見を述べているのか、それとも、指摘や不満など否定的な意見を述べているのかをタイプ分けし、そこから支持の有無と関連させることを試みた。ここでは前者を「称賛型」、後者を「批判型」とする。ただし、1つのコメントに両方のタイプが含まれるもの(例えば、「内容はわかりやすかったが、声が小さかった」など)もあったため、このようなタイプは「混在型」とし、別のタイプとして位置づけた。3つのタイプは、筆者が960件のコメント全てを読み、どれに位置づけられるのかを判別した。

表2は、各タイプのコメントを支持の有無別に分類した結果である。これを見ると、称賛型が他の型よりもコメント数は多いにもかかわらず、その割には支持の割合が低いことが見て取れる。そして、注目すべきなのは、混在型、批判型、称賛型の順に支持の割合が高くなった点である。

### 3.3 コメントの文字数の違い

前節のように、タイプ別で支持が高くなる傾向についてさらに詳しく調べるため、1コメントあたりの文字数を検討した(表3)。いずれのタイプも支持ありの方が、なしに比べて平均文字数は多く、これも混在型、批判型、称賛型の順に文字数が多い結果となった。混在型は、称賛と批判の両方を含んだ記述になっているので、必然的に字数が多くなる。そして、同タイプの中で見て字数が多いものは、少ない字数のものに比べて、キーワードを複数用いている、あるいは丁寧な書き方をしていると予想される。すなわち、支持を決めるにあたってコメントを比較する際、キーワードの豊富さや、丁寧な記述が目に残れば、それだけ支持を決定するための各人自身の判定基準を満たすことになるので、どのタイプでも、長めのコメントが支持されたと見えよう。

### 3.4 考察

上記の分析を通じて、支持の有無はコメントに含まれるキーワードの違いから決まるのではなく、タイプや文字数の多さに影響すると考察した。受講者は模擬授業の中で、称賛を得ることよりも改善点を

表2 タイプと支持から見たコメント数の内訳

	称賛型	批判型	混在型
支持あり	114(25.9)	91(40.1)	127(43.3)
支持なし	326(74.1)	136(59.9)	166(56.7)
合計	440	227	293

※カッコ内は、列毎での割合(%)を示す

表3 タイプと支持から見た平均文字数

	称賛型	批判型	混在型
支持あり	39.4(15.5)	42.3(17.3)	60.3(25.3)
支持なし	29.0(10.9)	35.0(13.9)	46.4(14.6)

※カッコ内はSDを示す

指摘してほしいという要望が強く、それがクラス内での共通認識だったと捉えるのが妥当であろう。そのため、称賛型より批判型のほうが支持の割合は高くなった。さらに、称賛型はその数の多さから似たり寄つたりのコメントが目立ちがちであり、支持するかどうかを判断する第三者(授業者と当該コメントを記入した者を除いた受講者全員)にとっては、コメントの個々の特徴を判別しにくい状況になっていたと考えられる。

また、第三者側からすると、ストレートな批判を支持するよりもオブラートに包んだ形、つまり、良いところを認めつつも、的確な批判をしているコメントのほうが、より支持しやすいということであろう。これは、受講者間でのフォローの意識が互いに働いた結果と推察される。

## 4. まとめ

本研究では、評価コメントに対する支持について、大学生はどのような点から起因しているのかを、ソーシャルボタンの押下から記録した情報と、評価コメントを関連させて分析した。

その結果、支持の決定は、コメント内に含まれるキーワードそのものから判断されるのではなく、コメントのタイプや長さに影響することが明らかになった。タイプは称賛型、批判型、混在型の3つとしたが、なかでも文字数の多い傾向にある混在型のコメントが支持を得やすいことがわかった。

今回のソーシャルボタンからの分析は、限定したアプローチで行ったものであり、本質をまだ完全に捉えていないと考える。ソーシャルボタンの情報を分析材料としてどう扱っていくかを念頭に、今後さらに検討していきたい。

本研究の一部は、科学研究費補助金若手研究B(課題番号24700903)の助成を受けたものである。

### 参考文献

- (1) IT用語辞典バイナリ: “ソーシャルボタン”, <http://www.sophia-it.com/>
- (2) 石川貴彦, 赤間清: “教職実践のための相互評価支援システム”, 日本教育工学会研究報告集, Vol.JSET10-1, pp.429-434 (2010)